

学校づくり事業

〈中頓別学園基本設計について〉



写真：新しい学びの場をみんなで考える会議の様子

中頓別町では、令和3年度より、令和8年度の中頓別学園開校を目指し、中学校校舎の建て替えを含め、認定こども園、小学校、中学校が連携した新しい学校づくりに向けた取り組みを進めています。今月号では、これまでの検討過程や9月に示された基本設計、これからのスケジュールなどについて紹介していきます。

これまでの検討過程について

令和4年2月に、認定こども園から中学生までのお子さんの保護者を対象にアンケートを実施し、「新しい学校づくりに関するアイデア」などについて、うかがっています。このアイデアの中には、得意な分野を深く学ぶ時間があると良いや異年齢の交流ができると良い、地域に開かれた学校を目指したい、木の温もりを感じられると良いなど教育内容や目指す学校像、児童生徒の交流、設備などいろいろなアイデアが出ました。

令和4年3月には、「新しい学校をつくるう あったらしいな展」が開催されました。出張なかとん学

習塾では、相座教育長が書道を教えたり、ダリン先生が英語を教えるなどしています。なかとんコレクシヨンの授賞式では、子ども達も制作した、こんな学校があつたらいいなというアイデアを発表し合うなど多数の町民が参加し、イメージを膨らませてきました。

中頓別学園基本構想について

令和4年4月には、町民の皆さんのワークショップを通じ、基本構想ができました。新しい学校づくりでは、子どもは、地域全体で育てるといった基本的な考え方に立ち、中頓別小学校と中学校が9年間の義務教育学校となり、「まちの人とともにつくる幼小中一貫した教育の実現に向けて」をコンセプトに「まちの人とつくる学校」、「自然を生かし地域に学ぶ教育」、「グローバル化を見すえた英語教育の充実」の3つを柱とし、主体的、対話的で深い学びを目指していきます(図1参照)。並行し、文部科学省の委託事業である「新しい時代の学びの環境整備先導的開

義務教育学校 中頓別学園設置事業 幼小中一貫した教育の実現に向けて

まちの人とともにつくる

中頓別学園



図1：新しい学校コンセプト

発事業」のモデル事業として、地域住民や教職員とのワークショップを実施しています。

中頓別学園基本計画について

令和4年12月に中頓別学園基本設計について、4業者から提案があり、「まちの皆さんとともにつくる」などを基本方針としている株式会社 日建設計(東京)より、技術提案を受けることが決定しています。

令和5年3月に、「中頓別町まちの人とともにつくる人生100年の学びの拠点基本計画」が示され、新しい学校の整備にあたっての現状や課題、教育理念、施設計画の方針などが示されました。

現状と課題では、整備の建設候補地として、小学校の敷地が挙げられています。小学校と認定こども園との距離が近く、義務教育学校として機能がしやすいメリットなどが挙げられており、小学校の敷地とすることで、施設一体型の義務教育学校の実現や交流・連携がしやすいことなどから、人生100年の学びの拠点づくりの実

現を目指します。また、教育理念では、対話を通して、多様な価値観の中で学ぶ共生、わくわくすることを大切にすると好奇心、一緒にやってみる共創を柱に、地域資源である環境・自然を活用し、対話・協働をベースとした新しい時代の学びを進めていきます。

中頓別学園基本設計について

令和5年8月には、中頓別学園基本設計が示されています。

基本設計では、「好奇心を育み地域交流と活動の拠点となる町のリビング」、「地域交流の中心となり、まちに開かれた学校」、「地域の人のとって、居心地の良い場所づくり」とする考え方で計画を行っています。具体的には、既存校舎を囲むコンパクトな平面により、互いの距離が近い一体感のある校舎とすることや本による知識と特別教室での実学を中心に、図書室を大人や子どもの学びを刺激し、共生共創の活動拠点とすることや地域に開かれ、様々な人が立ち寄れる校舎、木の優しさを感じられる様に部分的木造校舎として計画し